

青少年育成指導

1 面 令和元年年度管外視察研修会
ブロック研修特集
2 面 学校紹介 山田小学校
雑感ほか

令和元年度管外視察研修会

令和元年11月13日、管外視察研修会で午前中に交野女子学院の視察、午後からは大阪マックの講演を聞きまし。枚方市青少年育成指導員45名が参加しました。

交野女子学院にて

中宮北校区代表 渡邊 小百合

交野女子学院は全国に9ヶ所あるうちの一つの女子少年院です。一見すると普通の学校に見える外観ですが、院内への入り口や各部屋には鍵がつけられ、窓には鉄格子が設置され、カーテンは短く室内の様子が見えるようになっていいます。

この施設の収容人数は90名で、現在30名ほどの少女たちが生活しながら教育を受けています。彼女たちは窃盗、傷害、覚せい剤、詐欺、く犯、大麻などに関与したことで入院しています。

少年刑務所は刑罰を科すための施設ですが、少年院は社会復帰をさせるための矯正教育を行う施設です。そこで短期収容で5か月から長期収容で11か月の間、教科指導・生活指導・体育指導・クラブ活動や季節ごとの行事を通じて学ぶ特別活動指導を受けています。

そういった指導の中で、特に印象に残ったのは「マインドfulness」と「被害者の視点を取り入れた指導」というものです。マインドfulnessとは米国の瞑想法で、ストレスを低減させることで衝動的な感情をコントロールする力を身につけさせるというものです。被害者の視点を取り入れた指導とは、何らかの事件に巻き込まれて亡くなった方の顔写真や遺品と向き合うことで、被害者にも人生があり、それがある日突然奪われたという事実から、法を犯すことがどういことなのかを認識させるというものです。

しかし、こういった矯正教育が行われているにもかかわらず、再犯率が2〜3割も

あるという現実があります。そこには家庭の問題、学校の問題、反社会的勢力の問題といった様々な社会の課題が紐付いている。間違いを犯した子どもたちにとって、少年院や少年刑務所は究極の場所です。そこに至らずとも、しんどい思いをしている子どもたちはたくさんいます。そういった子どもたちを守り育てるという大人の努力が必要ではないでしょうか。だって、子どもは社会の宝なのです。



交野女子学院玄関にて

「薬物等の依存症について」

樟葉北校区代表 荒谷 賢一

管外研修の第2部として、特定非営利活動法人「大阪マック」から、3名のスタッフ・メンバーがお越しになり、各人の経験談を包み隠さず赤裸々にお話し頂きました。

ここでは、字数も限られているので、青少年育成指導員の目線から幼少期の家庭環境と薬物等に嵌るきっかけ、ならびに回復プログラムの取組みについて少しお話しします。まず、女性スタッフのワタノ様です。彼

女の父親はアルコール依存症で暴力も絶えず、家庭が機能不能でした。彼女の心にはほっかりと穴が空き、19歳の時に出会った男性を介して覚醒剤を知ることになったそうです。

次に、男性スタッフのシンさんは、物心がついたときから両親が出ていき、祖母に育てられました。また、その祖母はシンさんを叱ることもなかったとのことでした。シンさんも寂しい思いから、15〜16歳の頃から左官業をしながら不良行為に及んだそうです。

2人に共通しているのが、幼少期に、自分が不幸な人間で、常に他人と比べてしま。常に、幸せになりたいとの感情を抱いていたことです。いかに、幼少期の家庭環境が大切かを改めて確信しました。

そして、回復プログラムの一つとして、メンバーに言っていることに感銘しました。「今日やるべきことを意識して今日やる」。薬物やアルコールを根絶したいのなら、「まず今日耐える。それから明日も、と一日一日を繰り返すだけである」。これは、薬物だけではなく、我々にも、子どもたちにも意識して取組めることではないかと思いました。

最後に、薬物やアルコールに関わらず、現代ではゲーム、スマホなどの依存症も現れています。依存症になりやすい人は、物事から逃げがちな特徴があるようです。子どもたちには逃げない精神を伝えることが必要だと感じました。



大阪マックによる講演

ブロック研修特集

【北部ブロック】

日時 令和2年2月23日(日)
場所 楠葉生涯学習市民センター
参加人数 16人

【北部ブロック研修会に参加して】

令和2年2月23日(日) 午前10時から12時まで「いきいき広場」三木アドバイザーを交えて、前半は現状報告を行い、後半に座談会形式で新型コロナウィルス等の対策がなされるなか楠葉生涯学習市民センターで開催されました。

各校の実施状況を三木アドバイザーの資料を使用して詳しく説明して頂きました。座談会においては、各校の取り組みについての問題点が話し合われました。議題の中では、移動動物園やプール等の利用が話題になりました。

研修を終えて印象に残った言葉は、三木アドバイザーの「どの校区でも、どんな活動でも子どもたちは、無邪気に楽しく笑顔で活動に参加してくれています。」です。

【中部ブロック】

日時 令和2年2月1日(土)
場所 市民会館
参加人数 22人

【中部ブロック青少年育成指導員研修会を終えて】

中宮校区代表 寺島 正彦
令和2年2月1日市民会館において、中部ブロック研修会を7校区22名の参加者で大阪府青少年・地域安全室青少年課 総括主査 小倉篤様と鶴川拓史様の2名の講師をお招きし、少年非行の現状についての講義を受講しました。

まず、鶴川氏より、青少年健全育成と暴力団対策法のお話がありました。暴力団の実態として、令和元年全国で30,500人、大阪では2,400人の暴力団があり、130件の抗争事件が起こり、現在、特定抗争指定暴力団として山口組等が指定され、組事務所が作れない、指定区で5名以上集まれば逮捕されます。大阪市と豊中市が指定都市となっていることです。

また、未成年の男女を中心に、繁華街で半グレ集団として準暴力団もどきの行動が、頻繁にある話でした。守るための対策として、すぎのある少年に反発のようなく口調で明るく近づいたり、言いがかりをつけたり暴走族グループに声をかけたりするので、気を付けてほしいとのことでした。

次に小倉氏より、少年非行の現状についてのお話があり、平成30年度に少年非行犯罪が、刑法犯(14歳以上)2,236件、触法犯(14歳以下)568件があったとのこと。おおよそ、毎日9〜10人が輔導されている現状です。また、大麻取締りでは、昨年96名を取り締まったそうです。少年サポートセンターについてのお話では、大阪府・府警本部・教育庁の三者による連携で非行未然防止や立ち直り支援等、少年健全育成のため活動しているとのこと。大阪府内には10カ所あり、枚方市にもセンターが設置されており、一人一人の状況に応じて立ち直り支援を行う活動をされています。少年非行防止活動ネットワークや、少年サポートセンターは大阪府のホームページに掲載してあるので、一度閲覧下さいとのことでした。

約二時間の研修会をいろいろと参考になるお話が聞け、参加者の皆様も大変有意義な研修会に参加できたと思ってくれたと思います。

【南部ブロック】

日時 令和2年1月26日(日)
場所 南部生涯学習市民センター
参加人数 30人

【令和元年度南部ブロック研修報告】

東香里校区代表 梅木 正篤
令和2年1月26日(日)に南部ブロック研修が南部生涯学習市民センターにて開催されました。参加者は30名でした。

枚方市子ども青少年部・子ども青少年政策より4名の方々にお願いいただき、「青少年育成指導員の活動について」というお題でお話をいただきました。

まず青少年育成指導員活動の目的、内容について再度確認し、枚方市子ども・子育て支援計画に基づいて子どもを取り巻く状況や課題と今後の方向性について説明がありました。特に子どもの虐待や貧困、

引きこもり等は課題であるとの事で、そして参加者からは早期発見のため指導員が地域活動等の参加で、子どもに顔を覚えてもらおう事の重要性、子どもの様子の変化に気が付いた時の相談についてなど活発な意見交換が行われました。また、子どものゲーム依存やネットトラブルについても話がおよびました。

今回の研修で、各校区で課題や対策が共有化されたと同時に認識が深められました。より良い子どもへの援助・助成のためには今後も研修を通して各校区指導員間の意見交換の重要性を再認識しました。

【東部ブロック】

日時 令和2年2月9日(日)
場所 菅原生涯学習市民センター
参加人数 33名

「東部ブロック研修 救急救命講習」

菅原東校区代表 小倉 悠紀雄
令和2年2月9日、菅原生涯学習市民センターにて東部ブロック(9校区)33人が参加して研修会を開催しました。テーマは「救急救命」で講師に枚方消防署から救急隊員3名に来て頂きました。スライドによる正しい119番通報のやり方では、重大な病気や怪我の場合は迷わず119番へ、一方病院に行った方がいいか?近くの病院はどこ?応急手当の方法は?救急車を呼んだ方がいいか?こんなときは、「救急安心センターおおさか」119または06-655827119に電話すれば、医師・看護師・相談員が24時間365日対応で案内、アドバイス、緊急時には救急車が出動することが分かり、参考になりました。

次に胸骨圧迫の実技講習とAED(自動体外式除細動器)の使い方を教わり、各自が真剣に訓練しました。3時間みっちり講習を受け、実技訓練の結果、全員が胸骨圧迫の要領とAEDの使い方を習得しました。そして、全員が合格し、枚方消防署長よりの「普通救命講習修了証」が交付されました。もし倒れている人を発見したら、肩を軽く叩きながら「大丈夫ですか?」と

大声で呼びかけても意識がなければ周囲の人に119番通報とAEDの手配をお願いして、胸骨圧迫を開始し到着したAEDをすみやかに装着して電気ショックを行い救急車の到着を待ち、救急隊員に引き継ぐことにより一命を救える事の大きさを知り、いかに初動措置が大事であるかわかりました。

【西部ブロック】

日時 令和2年2月16日(日)
場所 市民会館

「子ども食堂の現状」を聞いて

香里校区代表 能勢 淳
西部ブロック研修では、川越校区で子ども食堂を運営されている前会長の坂口孝司氏に子ども食堂の状況、ご苦労されていることなどのお話をうかがいました。

毎月第一、三金曜日に開催し毎月40〜50名の子どもたちの参加があるそうです。食堂の開設にあたっては保健所の検査、調理師の資格が必要などがあり、校区で資格を持っている方が複数おられることに感心しました。子ども食堂の効果として、子どもたちがいきいきと食事ができる。宿題を持参してやるようになった。スタッフ(高齢者)との会話がはずみ生きがいとなるなど、子どもたち、地域の双方にメリットがあるそうです。課題としては、食材の確保、保存、開催場所の制限など多くの課題があるそうです。

子どもたちの健全育成のために地域のみなさんと頑張っておられる姿にすばらしい地域力を感じました。



坂口前会長による「子ども食堂の現状」

《学校紹介》 枚方市立山田小学校 校長 福井 信治

本校は、明治十二年(1879年)交野郡田口村において創立され、大正十五年(1926年)に現在の甲斐田町に移転しました。今年で創立百四十年という大きな節目を迎え、学校の歴史に新たな一歩を刻んでいるところです。歴代の校長先生をはじめ教職員の先輩方が、様々な教育活動や研究に取り組んでこられた成果は、今も山田小学校の伝統として脈々と息づいています。

本校の運動場にはトウカエテが立っています。昭和四年(1929年)に卒業生の記念樹として植えられました。「ゆりの木」と呼ばれ、山田小学校のシンボルとして親しまれ、子ども達の成長を見守ってくれています。

本校では、①義務教育9年間を見据えた学力向上の取り組みの推進、②自尊感情と受容しあう気持ちの育成と心の教育の充実の推進、③基礎・基本の確実な定着と、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究の推進、④教職員の指導力向上、学校組織力向上に努め、チーム学校としての教育活動の推進、⑤家庭・地域との連携を深め、開かれた学校・信頼される学校づくりの推進、を学校経営方針として、「思いやりのある児童」「最後までやりぬく児童」「自主的に行動できる児童」の育成を、学校目標(目ざす子ども像)として、さまざまな教育活動に取り組んでいます。

特に、「学びに向かう力を育む授業づくり」と「心の教育」を重点課題とし、ことばの力を高め、表現力を育成するため、校内研究と授業づくりに取り組むこと、道徳教育、人権教育、健康教育等を通じ、学びに向かう力を育み、学力向上へとつなげています。青少年育成指導員の皆さまには、子

ども達をいつも見守っていただき、登下校や地域での安全に配慮していただいていることに感謝申し上げます。百四十年を迎える伝統校としてその名に恥じぬよう、今後も教職員一同一丸となって努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



「雑感」私の枚方市における地域 開成校区代表 山根裕治 活動について

私にとって地域活動は40歳頃に(現在は68歳)長男が開成小学校の時にPTA副会長に任命された時から始まります。以後、会長2年間、第四中学校でも会長をさせていただきながら青少年を守る会会長、今の地域教育協議会会長、平成9年から(現在まで)青少年育成指導員をしながら開成コミュニティ協議会を立ち上げ校区内組織の一本化を計ってまいりました。課題解決のため自治会連合会の結成を目的としていましたが当時は失敗しました。コミュニティ協議会は立ち上げから数年間は特にPTA役員のお母さん達の多大なる努力のお陰で毎年進化し、今は6代目会長が最大の力を発揮されています。この校区も同じでしょうが、現在は積極的に

PTA役員になる方は少なくなる中で、今まで長年かかって築いた行事が残念ながら出来なくなっているようです。

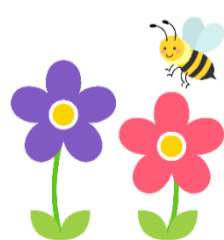
平成19年からは民生児童委員をしていました。ただサラリーマンの私にとっては、当時限られた時間の中で地域活動に対応するのは家族から大変な批判を浴び続けていました。反省しています。

サラリーマンを退職後の現在は衆議院議員の秘書や簡易裁判所で民事調停委員、司法委員の仕事しながら開成福祉委員会の事務局、青少年育成指導員校区代表や保護司の仕事をして頂いています。

現在の青少年育成指導員の最大の課題は校区の定員に満たない事です。若い人達に期待したいのですが、青少年育成指導員になりたいという人がここ数年声掛けし、探しているのが断られてばかりです。公募にしたらと言われていますが「魅力」、「やりがい」がないのでしょうか?十数年前から「開成パパさん隊」と一体となって活動しています。

枚方市には若手指導員の継続年数により今以上に充実した表彰制度を制定する事を提案します。若い人達に少し時間を作って頂き指導員になり自分の子どもだけでなく周りの子どもたち共々見守り指導する気持ちになって頂けるように切に祈念しております。

「多くの方々を知り合いになり役に立ちたい」という私の人生目標ゆえ指導員の方から誘われこのころの電話相談員や枚方在住の外国人への日本語指導もサークルで活動してまいりました。75歳くらいまでは人の役に立ちたいという気持ちを忘れずに枚方市に貢献したいと思っています。



令和2年度 枚方市 子ども未来部 子ども青少年政策課体制

- 子ども未来部
- 部長 杉浦 雅彦
- 次長 菊地 武久
- 子ども青少年政策課
- 課長 漆原 正義
- 課長代理 江藤 修一
- 係長 梶原 要一
- 係員 松尾 春那
- 係員 大久保 美紅
- 異動者(出)

課長 山下恵一(総合教育部教育政策課長) 課長代理 中山宏(子どもの育ち見守りセンター課長代理) 主任 丸山理一(子どもの育ち見守りセンター主任) 主任 吉川優人(総務部コンプライアンス推進課主任) 非常勤 三木賢司(学校教育部放課後子ども課放課後児童健全育成アドバイザー) 非常勤 篠原秀生(子どもの育ち見守りセンター) 子どもの未来応援コーディネーター)

※令和2年度より枚方市子どもいきいき広場の所管課が、学校教育部放課後子ども課へ変わりました。

【編集後記】

令和2年2月以降、新型コロナウイルスの感染拡大防止の為さまざまな対策が取られ、学校が3学期途中で休校になり卒業式・入学式が縮小して行われ、屋外の活動も制限されるなど、子どもたちは厳しい環境の中で過ごしています。このような中、私達青少年育成指導員は引き続き地域の中で子どもたちを暖かく見守っていかなくてはならないと思いました。

5月末で2年間の任期が終わりです。広報委員一同、枚方市青少年育成指導員の活動をわかりやすく伝え、青少年の健全育成の一助となるように考え4回発行しました。皆様のご期待に沿うことができたか心もとないですがお読みいただきましてありがとうございます。

